



今日から着手できる！ 物流現場改善 メソッド

物流の2024年問題により、物流現場の効率化は必須の状況であり、作業時間の短縮やコスト削減を進めていく必要が出てきます。しかし、大型マテハン機器などを導入した多額の投資には、躊躇する向きも少なくないでしょう。そこで「知恵と工夫」、「効果的なIT・DXの導入」で物流現場の課題を改善し、乗り切っていく取り組み事例を紹介します。

知恵と工夫による事例

「チェックリストの作成」

課題

物流センターでの検収作業にあたり、作業者は直感的に貨物のチェックは外観を見ているだけだった。そのため、箱のつぶれなどのミスが発生していた。

対策

検収の際、外観や内容物の異常について、簡単に入力できるチェックリストを作成。項目のリストは現場でヒアリングを行い決定した。

効果

- ・確認漏れ、指示漏れなどが大幅に減少。
- ・作業時間も大きく短縮でき、作業効率が向上。

〈改善前〉

「まず汚れをチェック、次にへこみがないかをチェックし…」と順を追って確認していたため、時間がかかり、確認ミスも発生しやすい状況であった。

〈対策〉

エクセルなどで
チェックリストを作成。

状態	チェック	項目
汚損・破損	✓	汚れ
	✓	へこみ
		つぶれ
		はがれ
内容物の異常		穴あき
		浸み出し
		異音の発生 水漏れ

〈改善後〉

「その作業をするのを忘れていた」といったミスが減少し、作業効率が向上した。さらに、確認すべき事項を一目で見ることができ「作業の全体像をすばやく把握できるようになる」という効果も。

効果的なIT・DXの導入事例

「スマホアプリの活用」

課題

荷降ろしの際、ドライバーが数種類あるパレットの色別枚数を目視で数え、パレット伝票を作成していた。しかし、枚数のカウントには数分の時間がかかり、ドライバーの長時間待機の大きな原因となっていた。

対策

AI技術を用いたパレットカウントアプリを導入し、目視からアプリでの枚数管理に切り替えた。スマートフォンで荷台を撮影すると、パレットを色別で自動でカウント。システムに入力し、伝票の出力が行える。

効果

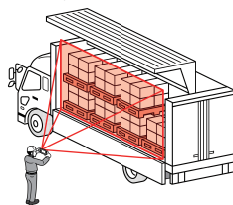
- ・目視による枚数カウントと伝票作成・発行の手間が自動化されたことで、荷降ろし・入荷作業が削減。トラックの待機時間も短くなった。
- ・目視による確認ミスがなくなった。

〈改善前〉

ドライバーがパレット枚数を目視でカウントしていたため、入荷作業に時間がかかり、同時に待機時間も大きく影響。

〈対策〉

荷台のパレットを撮影するだけで枚数を数えられる、パレットカウントアプリを導入。



〈改善後〉

枚数管理とパレット伝票の作成・出力が自動化でき、トラック待機時間削減や人的ミスが減少。

鈴木 邦成（すずき くにのり）

物流エコノミスト、日本大学教授（在庫・物流管理など担当）、博士（工学）（日本大学）、早稲田大学大学院修士課程修了。日本ロジスティクスシステム学会理事、日本SCM協会専務理事。専門は物流・ロジスティクス工学。主な著書に『物流DXネットワーク』（NTT出版）、『入門 物流（倉庫）作業の標準化』（日刊工業新聞社）。